

## “探究” その価値と楽しさ

< 「？」を大切に >

北野小学校長 丹羽 郁人

10月5日、真鍋淑郎（まなべしゅくろう）氏のノーベル物理学賞受賞のニュースが世界を駆け巡った。授賞理由は「地球の気候と地球温暖化の予測に関する物理モデルへの貢献」。真鍋氏はアメリカ ブリントンの自宅で記者団に「非常に光栄に思う。」と喜びを語った。

日本の若者に対しては、「研究の醍醐味は好奇心。なぜこういうことが起きるのか、という研究がいいのではないか。」とアドバイスした。

「どんな困難があったのか。」と記者団から質問されると、「あまり……」と言ってしばらく考え込んだ後、「楽しくて仕方なかった。」と答えた。



2年生が「どろだんご」づくりを生活科の学びの中心に据えた。教師が「どうしたらツルツルピカピカのどろだんごになるのかな？」と問いかける。

その問いかけで子供たちが動き出す。「みがけばいいよ。」「砂で磨いたらどう？」「細かい砂のほうがいいんじゃない？」

2年生の「探究」が始まる――。

この夏、

3年2組の「尾崎 志門」さんは、「セミはどんなふうに羽化しているのか？」と疑問に思い、公園でセミの幼虫を捕まえて、夜通し観察した。

3年2組の「濱谷 修羽」さんは、「大地震にどんなことを備えるべきか？」と疑問に思い、豊田市防災センターや消防署へ取材に出かけた。

4年3組の「日下部 創」さんは、「何色がいちばん太陽電池を発電するのか？」と疑問に思い、実験を繰り返し、太陽電池の秘密に迫った。

5年2組の「岩瀬 拓海」さんは、「生ハムは豚肉なのに、なぜ生で食べることができるのか？」と疑問に思い、微生物をおさえる実験を繰り返し行った。

6年1組の「日下部 空」さんは、「三河武士にはどんな人がいて、どこで生まれたのか？」と疑問に思い、本多忠勝や鳥居元忠らの三河武士の発祥の地を訪れた。

6年1組の「鈴木 啓斗」さんは、「岡崎空襲どんな空襲だったのか？」と疑問に思い、祖父に話を聞き、慰霊碑や戦災復興之碑を訪れた。

6年3組の「布藤 綾人」さんは、「黒色のマスクは、本当に暑いのか？」と疑問に思い、いろいろな色のマスクを使って何度も実験をした。

疑問に思い、問題意識をもって、動き出す子供たち。

探究は価値がある。そして、楽しい。

子供たちのポケットには、いつだって「好奇心」が詰まっている――。

(2021・10・15)